

公衆衛生看護学概論	2年・前期	2単位	他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310892

### 1. 授業のねらい・概要

地域にはさまざまなライフサイクルや健康レベルにある人々が生活している。公衆衛生看護は自治体の保健師を中心に、個人・家族・集団・組織を対象としてとらえ、地域の人々の健康課題を明らかにし、予防や健康危機への対応を中心にQOLの向上をめざす取り組みを行っている。公衆衛生看護の理念および目的、保健師の役割と機能を理解し、公衆衛生看護活動の特性と方法について学習する。

### 2. 学修の到達目標

1. 公衆衛生看護の理念と目的を理解する。
2. 公衆衛生看護の対象と特有な活動方法を理解する。
3. 公衆衛生看護活動の場の違いと活動方法を理解する。
4. 社会環境の変化に伴う健康課題の変遷と関連法規について理解する。
5. 公衆衛生看護の地域アセスメントを理解する
6. 公衆衛生看護活動の実際を知る

### 3. 授業の進め方

公衆衛生看護学の基本的な考え方や保健師の業務・役割および保健師の活動の場や特性など、ポイントを絞って授業を進める。

### 4. 授業計画（講義）

1. 公衆衛生看護の基本概念・目的（）	10. 国際協力と国際看護（島田）
2. 公衆衛生看護の対象（）	11. 公衆衛生看護活動の実際（） 健康診査と事後指導
3. 公衆衛生看護の対象を取り巻く生活環境と健康課題（島田 昇）	12. 公衆衛生看護活動の特性（）
4. 公衆衛生看護の特有な活動方法（）	13. 公衆衛生看護活動の実際①地区活動（）
5. 公衆衛生看護の場①産業保健（島田）	14. 公衆衛生看護活動の実際②（赤石嘉苗） セルフヘルプグループ活動
6. 公衆衛生看護の場②学校保健（）	15. 公衆衛生看護活動の実際③（川尻洋子） 地域で暮らす難病者への支援活動
7. 公衆衛生看護の場③行政保健（）	
8. 公衆衛生看護の活動方法①地域アセスメント（島田）	
9. 公衆衛生看護の活動方法②施策化の基本（）	

### 5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）70%，課題レポート30%で総合的に評価する。

### 6. テキスト・参考文献

テキスト：公衆衛生看護学 第4版データ更新版，インターメディカ  
参考文献：標準保健学講座Ⅰ公衆衛生看護学概論，メヂカルフレンド社

### 7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

テキスト内容を熟読し，予習（30分以上）を行い，受講後は講義内容をノートにまとめること。

### 8. 受講上の留意事項

日常的に新聞を読みニュースに触れるように心がけ，図書館を利用し文献や専門雑誌に目を通すこと。

遠隔授業：リアルタイム型の場合は，時間割の時刻に授業を受けられる体勢を取ること。

オンデマンド型の場合は，1回分の内容を最後まで見ること。

対面授業：遅刻，欠席ならびに授業中の私語，授業に関係ない言動は慎むこと。

### 9. 課題に対するフィードバックの方法

試験実施の際に解答などを説明する。

### 10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

### 11. 実務経験のある教員等による授業科目

行政機関及び医療機関における保健師としての実務経験を活かして、講義を行う。